

蔵位轉借ノ一例ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38375

十全會雜誌

(第六拾八號)

原着及實驗

●臟位轉錯ノ一例ニ就テ

石橋 四郎

本症ノ名稱ハ未ダ一定セズ其ノ報告者ニ依テ種々用ヒラレツ、アルナリ例
 バ(一)臟位轉錯症(二)内臟位置異常症(三)内臟位置異狀症(四)内臟轉位
 (五)内臟位置變常(六)内臟位置轉倒症(七)内臟錯位症(八)臟位倒錯症(九)
 右胸心(十)心臟右在症(十一)Situs inversus, (十二)Inversio viscerum, (十三)
 Situs mutatus (十四) Situs transversus, (十五) inversio corporis structurae,
 (十六) Heterotaxie 等ト云フ皆是レ内臟位置ノ先天性轉錯セルノ謂ニミテ堀
 井祐氏が軍醫團雜誌第十一號ニ於テ臟位轉錯ナル名稱ヲ推奨セラレタル理
 由ノ適當ナリト思考シ余モ亦茲ニ此ノ名稱ヲ冠シタルナリ
 本症ヲ別テ全臟位轉錯 Situs inversus viscerum totalis 不全臟位轉錯 Situs
 inversus partialis トス前者ハ胸腹腔臟器ノ全ク其ノ位置ヲ左右轉倒セル
 モノ後者ハ胸腹腔臟器ノ一部其ノ位置ヲ交換シ或ハ胸腔臟器又ハ腹腔臟器
 ノミ其ノ位置ヲ交換セルモノナリ故ニ右心症 Dextrocardia (心臟ノ位置全
 ク右胸内ニ在ルモノ) 心脱出症 Ectopicaardia (心臟ノ位置甚ダシク轉シ胸
 腔外ニアルモノ) 等ハ即チ不全臟位轉錯ニ屬スルモノナリ

之ノ心臟脱出症ナ更ニ三ツニ別ツ、

- (1) 胸性心脱出症 Ectopia cordis pectoralis
- (2) 腹性心脱出症 Ectopia cordis ventralis
- (3) 頭性心脱出症 Ectopia cordis capitialis

而シテ從來ノ報告セラレシモノハ多クハ全臟位轉錯症ニシテ不全臟位轉錯
 症ハ甚ダ少シ先ツ堀井氏ノ蒐集例ヲ表示シ次ニ其後ニ報告アリシ例ヲ掲ゲ
 最後ニ余ノ例ヲ述ベントス

堀井氏ノ調査ニ依ル Paul Galinsky 氏ハ 1895. Jahrbuch für Kinderhei-
 lkunde u. Aristoteles 氏時代ニ於テ既ニ知ラレ居リシト(三二二年乃至三
 八四年) 佛人 Bialan ハ(一六五〇) 刑人ノ屍體解剖ニ際シ發見シ詳細ノ報
 告ヲナシタルヲ始メトス Naugant u. Piory ハ(一八二〇) 打診ニヨリ本
 症ノ一例ヲ診定シ、Berlin u. Doubled ハ(一八二四) 打診聽診ニヨリ發見
 セル一例ヲ報告シ Kichenmeister ハ一六四三乃至一八八三年間ニ亘ル既
 往文獻中ヨリ一五〇例ノ實驗ヲ蒐集セリト一八四三年 Wolfshofer 氏ノ報
 告在リシ以後 Traube, Virchow, Oppolzer, Seitz, B. S. Schnitze, Lieber-
 maister, Vahn, Schröter, Ziemssen, Leyden, Kichenmeister, Paul Ga-
 linsky 等ノ諸氏ノ報告アリ而シテ本邦ニ於ケルモノハ笠原光興氏ノ明治
 二十三年一例ノ報告ヲ以テ始メトス

番號	例數	年次	報告者氏名	雜誌名
一	一	明治廿三年	笠原光興氏	東京醫學會雜誌第三卷第十三號
二	一	同 廿五年	熊谷元且氏	同 第六卷第四號

(原着及實驗)

(原著及實驗)

三一	一	明治廿七年	中西龜太郎氏	中外醫事新報第三一號
四	二	廿九年	赤沼信吉氏	醫事新報第四六七號
五	二	廿九年	雨森一郎氏	東京醫事新誌第九三五號
六	一	年	佐藤 豐氏	同 第九二七號
七	一	三十一年	栗本東明氏	同 第九七九號 第九八〇號
八	一	年	長岡 保氏	京都醫學會雜誌第一一八號
九	一	廿一年	中田孝作氏	東京醫事新誌第一〇五七號
一〇	一	年	隱岐慶次郎氏	東京醫事新誌第一〇五九號
一一	一	廿二年	桑波田嘉吉氏	成醫會月報第二〇二號
一二	一	年	尖戶俊治氏	
一三	一	年	河合 清氏	中央醫學會雜誌第三一號
一四	二	廿三年	長與稱吉氏	胃腸病研究會々報第一卷第三號
一五	二	廿四年	竹崎 透薫氏	濟生學會醫事新報(第一〇七號 第二見)
一六	一	廿六年	山崎貞三氏	東京醫事新誌第一二九四號
一七	一	年	尖戶俊治氏	好生館醫事研究會雜誌 第十卷 第二號
一八	一	年	友 弘氏	
一九	一	廿七年	杉田源吉氏	中央醫學會雜誌第六一號
二〇	一	年	藁 科氏	
二一	一	廿八年	黑田春吉氏	北越醫學會々報第一四五號

二二	一	年	市川爲次郎氏	
二三	二	年	石丸名義氏	
二四	一	廿三年	第九師團陸軍々 醫分團研究會	軍醫團雜誌第四號
二五	一	年	福士政一氏	東京醫學會雜誌第三卷第七五號 本消化機病學會雜誌第八卷第三號
二六	一	年	猪子光太郎氏	軍醫團雜誌第九號

以上報告セラレタルモノ

其他實驗ニ止マルモノハ青山胤通氏ノ二例榑叔氏ノ一例入澤達吉氏ノ一例平井毓太郎氏ノ三例佐藤賀久壽氏及伊藤祐次氏ノ各一例ニシテ合計四十例ヲ算ス以上全臟位轉錯症ニシテ不全臟位轉錯症トシテハ報告甚ダ稀レニシテ Sissmann u. Lange, Pokitsansky, Ahfeld 氏其他十九名アルノミ本邦ニ於テハ即チ次ノ如シ

番號例數	年次	報告者氏名	雜誌名
一一	明治廿二年	伊藤祐彦氏 (剖見)	
二一	同 廿七年	弘田 長氏	兒科雜誌第四八號
三一	同 年	池田邦彦氏	醫事新聞第六六八號
四一	同 年	平井毓太郎氏	

以上合計四十四例ニシテ堀井祐氏(軍醫團雜誌第十一號)ノ一例ヲ加ヘ四十五例トス、以下余ノ蒐集セルモノヲ表示ス

番號例數	報告者氏名	症例ノ題名(地名)	照會雜誌名(括弧内ハ報告雜誌名)
一一 (四十二年(不明))	前島淳一氏	內臟側位轉錯ノ一例 (不明)	中外醫事新報第六八二號

一三	一	一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二
一(不 明)年	一(不 明)年	一(不 明)年	一三 月年	一 月年	一 月年	一(不 明)	二 同(不 明)年	一三 全 月年	一四 十三 月年	一 九 同 月年	一 二 四 十二 月年
翁瑞 春氏	同 上	三輪信太郎氏 瀧原五郎氏	喜多亮一氏	郡靜 哉氏	秋葉 豐吉氏	佐伯與太郎氏	山本 勳彌氏	秋葉 豐吉氏	佐藤 哲策氏	齋藤精一郎氏	赤尾 肇三氏
心臟右在症(右 胸心)ノ一例 (臺灣)	右胸心第二例 (不明)	右胸心一例 (不明)	臟位倒錯症ノ一 例(名古屋)	臟位轉錯患者供 覽(敦賀)	內臟錯位症(右 胸心)ノ一例 (東京)	內臟轉位ノ臨床 的實驗(不明)	內臟轉位症二例 及內臟轉位統計 (不明)	右胸心變內臟轉 位症ニ就テ (東京)	心ノ先天性右轉 ニ伴フ發作性心 悸亢進(佐世保)	內臟位置轉倒ノ 一例供覽(岡山)	內臟位置異常者 供覽(金澤)
同第七四九號 (臺灣醫學會雜 誌第九七號)	同 同第一一八號	中外醫事新報第七 四五號(兒科雜誌 第一一七號)	同第二二三號 (名古屋研究會)	軍醫團雜誌第二十 二號 (敦賀研究會)	一號 軍醫團雜誌第二十 一號	同雜誌第七三二號 (山田病院々友 會雜誌第二號)	中外醫事新報第七 七號(福岡醫學雜 誌第三卷第二號)	同第十三號 (東京研究會)	軍醫團雜誌第十二 號 (佐世保研究會)	中外醫事新報第七 一〇號 (岡山醫學會)	軍醫團雜誌第二二號

以上十四例ニシテ全臟位轉錯症ト認ム可キモノ八例不全臟位轉錯症ト認ム可キモノ六例トス(秋葉氏ノ明治四十三年三月ノ例ト四十四年ノ例ト同一

(原著及實驗)

ナルヤ各一例宛ナルヤ不明ナルモノ二例トシテ表示セリ)即チ本症ノ本邦ニ於ケル報告例或ハ公ニセラレシモノ實ニ余ノ一例ヲ加ヘ六十例トス勿論余ノ文獻ヲ涉獵スルコト少ナキヲ以テ絕對的ト云フヲ得ザルモ兎ニ角稀有ノ症ト謂ハザル可カラズ近來ニ至リ其ノ發見報告稍ヤ多キ傾向アリ是レ醫學的診斷ノ益々進歩ニ伴ヒシ結果ニシテ將來報告數ノ増加セラル、ヤ必セリ本年秋田縣區區徴兵検査ニ於テ檢丁總員實ニ五三三三名ニシテ(檢丁トハ受檢者タル壯丁、十二條志願者、六週間現役、砲兵工長志願者、其師管内外入寄留者ノ總稱タリ)實ニ〇、一八八〇〇ニ相當ス而シテ本邦ニ於ケル統計ノ公ニセラレタルハ石丸明義氏ノ明治三十九年壯丁二千三百四十五人中二例即チ〇、八五〇アルノミニシテ堀井祐氏ハ二個ノ壯丁検査ニ於テ七八千ニ對シ一回モ遭遇セザリシト云フ

而シテ本症ノ發見セラル、動機ハ常ニ偶然ニシテ他ノ病ノ爲メ受診シ或ハ身体検査ノ際ニ發見セラレ或ハ解剖中發見セラル、ナリ其ノ記載確實ナルモノ三十二例ニ就テ發見動機ノ數ハ死体解剖ニヨリシモノ二五、% 身体検査ノ際發見セラレシモノ二八、二二五% 他病ノ爲メ受診中發見セラレシモノ四六、八七五%ナリ

其ノ男女ニ就テノ頻度ハ確實ナル統計ヲ見ズト雖ドモ本邦ニ於テハ男三ニ對シ女一ナルモ歐洲ニ於テハ男女ノ關係二ト一トノ比ナリト云フ

實驗例

秋田縣仙北郡大曲町大曲二百四十七番地

小野地 寬 一郎

明治廿四年三月廿二日生

- 一、職業 商家手代
- 一、修業年 高等小學科第三學年修業、
- 一、遺傳的關係 祖父母ハ既ニ世テ去リシモ其ノ疾病ヲ知ラズ父ハ六十一歳リヨウマチス性疾患ニ罹リ居ルト云フ母ハ五十歳健全同胞姉一名他家ニ

嫁シ在リ健存血族中畸形兒等ナシ

一、既往症 幼時傷風質斯ニ罹リシト云フ他著患ニ罹リシコトナキモ僅カノ勞働ニ依リ心悸亢進ヲ覺ユ故ニ小學校在學中既ニ駢步競争等ヲ好マザリシト云フ煙草及酒ヲ嗜マズ

一、現症 體格榮養共ニ中等身長五寸二寸八分体重十四貫目視力聽力等ニ異常ヲ認メズ鼻腔ハ輕度ノ慢性鼻加答兒ヲ有ス四肢ハ左右對等ニ發育シ異常ナシ乳部及生殖器等亦異常ナク墨丸ハ左墨丸右ニ比シ下垂ノ度強シ脈搏ハ小ニシテ軟且ツ稍ヤ頻數ナリ胸部視診上心尖搏動位ニ認メズシテ右乳線外一指横徑ノ部ニ於テ之レヲ認メ觸診ニ際シ心尖搏動軟弱ナルニ依リ其ノ右胸心ナルト且ツ心機能ニ異常ノ存スルコトヲ疑フヲ得タリ打診上心臓ハ胸骨右緣ヨリ上ハ右第三肋間外側ハ右乳線ノ稍ヤ外側一指半横徑ノ部以內輕濁音ヲ呈シ上ハ第四肋間外ハ乳線ヨリ半指外側内ハ胸骨ヨリ一指横徑外側ヨリ濁音界ヲ占ム聽診上心音ハ一般ニ弱ク且ツ清澄ナラサルト心尖部ヲ右乳線部ニ置キ各辨口ノ位置恰モ生理的位置ト其ノ位置ヲ左右相反セシメタルモノニ相當ス加之心尖部ニ收縮期的雜音ヲ聞ク
肺臓ハ打診上其ノ下緣ニ於テ左肺ハ正中線ニテ劍狀突起ノ基底ノ高サ乳線ニテ第六肋骨中腋窩線ニテ第八肋間肩胛骨內緣ノ延長線ニ於テ第十胸椎棘狀突起ノ高サニ達シ以下濁音ヲ呈ス右肺ハ恰モ普通ノ左肺ニ於ケルガ如ク前胸ニ於テハ前記ノ心臓ヲ包擁シ腋窩線背部ハ左側ト等シ聽診上及聲音振盪呼吸運動異常ヲ認メズ即チ右肺ト左肺ト其ノ位置ヲ轉換セルモノト認ム肝臓ノ位置ハ其ノ濁音界モ亦左ニ有シ其ノ上界ハ中腋窩ニ於テ第八肋間ヨリ前ハ乳線ニテ第六肋骨正中線ニテ劍狀突起ノ基底ノ高サ後ハ肩胛骨內緣ノ延長線ニテ第十胸椎棘狀突起ノ高サ以下ニ占メ其ノ下界ハ左乳線及中腋窩線ニテ季肋部ニ肩胛骨內緣ノ延長線ニテ第十一胸椎棘狀突起ノ高サニ位ス觸診上其ノ下端ヲ季肋部ニ於テ觸ル、コト能ワズ即チ右側ニ存スル關係ヲ其ノ儘左ニ移シタルモノト認ム

胃ハ膨滿試驗等精密ナル検査ヲ缺クモ打診上下界ハ背位ニ於テ臍上二指横徑ニアリ(検査時午前十時頃)之レヨリ左側ノ鼓音界ノ大サヨリ右側ノ方大ニシテ乳線ニ達ス故ニ之レ亦左側ニ幽門ヲ有スルニ非ラザルヤト推測スルナリ

直腸試驗ヲ缺クヲ以テ述べ難シ
以上ノ諸症ニヨリ臟位轉錯症ニシテ慢性心内膜炎ヲモ兼タルモノト認ム依テ本症ノ一例ヲ追加タルモノナリ
稿ヲ終ルニ臨ミ軍醫分團弘前研究會七月例会ニ本症ノ二例報告アリト聞クヲ以テ茲ニ附記ス

* * * * *

雜纂

● 右利と左利

(發進醫會列席上に於て)

醫學博士 永井 潜

第一 左右相稱の基源

吾人の身體は大體に於て、左右相稱かれども、その間に亦不相稱の存するを見るは興味あることなり。動物の最も原始的なる形は、一定の相稱又は排列なきものあり、例へば「アメーバ」海綿動物の如きは、漸次高等とふるに従ひ、點線或は面の周圍に器官が相等しき排列をふし、隨て之を等分